

連載

# 97 在宅医療奮闘記

平成7年より  
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (66歳・内科)

58年ぶりの再会は、  
主治医と患者さんの立場である。

当時、私のなき父に夫婦間の悩みを  
相談していた姿がまぶたに重なった。  
私より20歳ほど年上の女性である。



ある日曜日。9歳の私が、自宅の能舞台に何  
気なく近づくと、女性(当時29歳)からの深刻  
な相談を受けている父がいました。その内容  
は、どうやら彼女の夫の不倫問題について  
のようでした。

「男というものは、一時の間違いを起こすもの  
だよ。静かにじっと待っていたら、そのうち目  
が覚めるよ。ムキになって彼をとがめないほう  
がいいよ。男が意地になったら、取り返しがつ  
かないから…」

「主人の浮気相手は、若い同僚みたいなの…」  
といったような会話があったと後で知るので  
すが、その時は、子どもながら何となくここに  
いてはいけない雰囲気を感じ、あわてて立ち

去ったのでした。しかし、その場面は私の脳  
裏に焼きつき、今でもはっきりと思い出せるの  
です。

それから何十年もたち、その女性の在宅医  
療を始めることになりました。お話を聞くと、も  
とのご主人とは25年前に熟年離婚し、その後  
彼は亡くなられたのだそうです。お子さんは県  
外で生活されていて、彼女は独居生活でした。

ご本人に会って初回診察となりましたが、  
私には58年前のその記憶がしっかりとよみが  
えりました。また、私にとって彼女の姿は当時  
のままでした。そして思わず驚嘆したのです。

人間の記憶の優先順位には、強烈な意識  
が深く関わり、その発現は時間空間を飛び越

えています。脳機能というものは、本当に不可  
思議なものだと改めて確信させられました。

未来とは、過去・現在からは決して予測で  
きないものです。この世の未来とは、まったく  
もって未知なものだと思わざるを得ません。

人と人との出会いや再会とは偶然なの  
でしょうか？赤い糸でつながっているとい  
うことなのでしょうか？いずれにしても、創造  
的進化を繰り返しながら未来空間は広がっ  
ていきますが、しっかりと志はその迷路に  
入り込むことが無いように思えます。

今回のような体験は、脳機能の無限性と  
いったものを見せつけられた気がしてなり  
ません。

「お医者さんが来てくれる」

24時間・365日態勢で対応(松山市全域)

私たちは質の高い在宅医療・看護・介護を  
目指しています。



医師数 22名  
(常勤8名、非常勤14名)

内科・外科専門医 18名  
(国立がんセンター勤務歴有3名)

精神科専門医 2名  
麻酔科専門医 2名  
(ペインクリニック科)

末期がん治療(緩和ケア)  
相談室開設!

Hyper Blood Viscosity (高血液粘度群)を科学する 臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設  
「地方創生健康長寿研究会」平成27年4月1日発足

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

http://www.touzaikai.jp/